

## 日米文化教育交流会議（カルコン）における G7倉敷教育大臣会合に関する馳大臣メッセージ

平成28年6月17日（金）

5月14-15日に岡山県倉敷市でG7教育大臣会合を開催し、学校訪問や日米バイ会談にはケネディ大使にも御出席いただきました。今世界が置かれている経済的社会的な状況、そして子供たちが今後置かれることになる新しい時代を見据えたとき、教育の新しい役割を今一度考えるべきではないかという強い認識のもと、我々は2日間にわたって、非常に密度の濃い議論を繰り広げて、倉敷宣言をとりまとめました。

倉敷宣言の中でも特に強調したいのは、3つの教育の新しい役割であります。

1つ目は、世界をとりまく、貧困、若者の失業、社会経済的格差、移民難民などの根深い新たな世界の課題への対応として、教育の力で社会的包摂、共通価値の尊重を促進させること。特に、今国際社会が連帯しなければならない大きな課題であるテロ、暴力的過激化への対応として、生命の尊重、寛容の精神、民主主義、人権の尊重などの共通価値に基づいたシチズンシップを育成する教育の推進、そして教育を通じた文化間の対話、相互理解の促進、そして道徳心を醸成する重要性について、強く合意をいたしました。

2つ目の新しい役割は、この新しい時代に求められる資質、能力を育成することです。何を知っているかという知識の質や量はもちろんのこと、それを使ってどのように社会世界と関わり、よりよい人生を送るかまでを視野に入れるべきであること。また急速な時代の変化に対応するために特に強化すべき教育分野について、例えば多様性に配慮尊重した教育、女性活躍を実現するための教育、ICT教育、職業教育、教員の資質向上、客観的根拠に基づいた教育政策など、多岐にわたる議論を経てそれぞれの重要性、目指すべき方向性について合意が得られました。

そして3つ目は、新しい役割を一層推進していくための国際協働のレベルを一段上げることです。様々なレベルで国際交流を図り、人の流動性を高め、教育を国際化していくこと、グローバルな視点から教育できる教員をG7が協働して育成すること、そして、持続可能な開発目標の実現加速に向けた一層の取組推進、開発途上国への国際教育協力の強化に合意をいたしました。

文部科学省としては、この倉敷宣言を政策として実現していくため、来年度の概算要求において、G7諸国等との間で教育実践の共有、教員の国際交流等を行う新たな国際協働プログラム「G7倉敷宣言プログラム」を立ち上げたいと考えております。

来年イタリアで教育大臣会合が開催されることが合意され、G7国間の協力枠組が継続されたことも極めて大きな成果です。

日米文化教育交流会議（カルコン）におきましても、日米交流推進に向け、G7倉敷宣言を踏まえ、そこで取り上げられた事項について取り組んでいただきたいと考えています。本日は活発な意見交換が行われ、有意義な会議となることをお祈りしています。

(了)